

実践報告

市立札幌豊明高等支援学校

(1) 研究内容

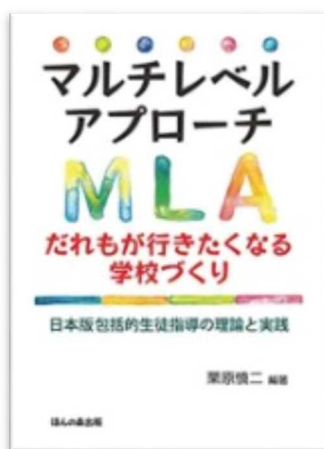
研究課題：「人権教育を基盤とした学校づくり等の研究」

～MLA マルチレベルアプローチ 包括的生徒指導の理論と実践研究～

○自他ともに尊重し、共に学び合い、思いやりのある生徒の育成

(2) 実践の内容

平成元年度（2019年度）4月、特別委員会を設置（「Mプロ」推進委員会：MLA マルチレベルアプローチ 豊明版包括的生徒指導プロジェクト推進委員会の略称。通称「Mプロ」。教頭を委員長



とし、教務部長、研究部長、生徒指導部長、各学年主任など、総勢13名）。広島大学大学院教育学研究科教授・公益社団法人学校教育開発研究所（アイセス：MLAのeラーニングや教員免許更新講習等を提供）代表理事の栗原慎二先生が中心に進めるMLAをベースに、積極的・予防的生徒指導と予防的・開発的教育相談を統合的に行い、生徒の全人的成長を支えるための心理的発達と社会的発達を促し、すべての生徒の対人関係力の改善・ともに支え合う集団づくりにより「いじめ」や「不登校」を未然に防ぎ、性別や個人の特性の違いによる差別のない学校づくりをめざし、「MLA 豊明版包括的生徒指導」を試行導入し研究実践を進めた。

◆豊明版包括的生徒指導の基本的な考え方

MLA マルチレベルアプローチ～豊明版包括的生徒指導～ 試行導入に向けて

本校生徒の在学中のトラブルや卒業後の離職の原因として、コミュニケーション力の不足や感情理解不足が多いと感じる。例えば、自転車に乗れるようになるのは、何度も転びながらも実際に練習し技術を身に付けるからである。水泳も実際に水の中で練習して泳げるようになる。どちらも理論だけ頭に入っても実際にできるようにはならない。コミュニケーションや対人スキルも実際に何度も体験し身に付けるための、学校での具体的なプログラムの導入が不可欠なのである。社会構造の変化から、生徒が地域や家庭で自然と社会性を身に付けられる時代ではなくなっていることから、学校でプログラムを導入することが解決策なのではないか、そして、学校で一番多い時間は授業であり、教育課程の中に位置づけて計画的に指導することが本校生徒にとって重要であると考えた。

これまでの生徒指導は問題行動の後追い指導が圧倒的に多く、トラブルを回避するためにリアルな対人体験をさせないことを教師側が行ってきたのではないか。人間関係から起こるトラブルはリアルな人間関係の体験によって習得した対人スキルを身に付けることが解決手段であり、自転車や水泳のように体験を通してしか身につかない。生徒たちの将来の社会人としての自立つなげるために、失敗を成功のチャンスと捉え、支援することが重要ではないか。

MLAは、先行研究から見ても、小・中学校（出来れば就学前から）からの導入が効果的ではある

が、本校のような課題を多く抱え、発達にも凸凹のある生徒にとっては卒業までに少しでも社会性を身に付け将来の自立に役立つ教育プログラムであると考えた。

具体的なプログラムとして、SEL（社会性と情動の学習：Social and Emotional Learning）、PBIS（ポジティブな行動介入と支援：Positive Behavioral Interventions and Supports）、ピア・サポート、協同学習の4つを柱とし、全学年で的確な支援のためのアセスメントツールの一つとして子どもたちの学校適応感を把握できる「アセス」を取り入れた。5月には全教職員を対象とした「アセス研修」、1学年教員対象の「PBIS研修」・「SEL研修」7月には「MLA研修①」、12月に「MLA研修②」を実施。8月5日には、広島大学大学院の栗原慎二先生から直接、講演をしていただき、本校のMLAの取り組みについての方向性に確信と勇気を得ることができた。また、8月6・7日には2名の教員が総社市（MLAを基本とした「だれもが行きたくなる学校づくり」〈平成22年度から市内全小中学校で実施、最近幼稚園から〉で、反社会的行動や不登校の減少など効果を上げている。）にて視察研修、また、カリマネ検討委員会や「Mプロ」推進委員会などが連動し、新学習指導要領に関連した教育課程の見直し作業に、4つのプログラムの関連付けを行うことを盛り込んだ。

MLAの導入は、新学習指導要領でいう「主体的・対話的で深い学び」の実現と非常に深く関わりがあると考えられる。特に発達の課題を持つ本校生徒にとっては、そもそもコミュニケーションをとることに苦手意識のある生徒が多く、「主体的・対話的で深い学び」の「対話的」をどう実現するかは大きな課題である。「自分の意志を表出する際にネガティブ体験（嘲る、無視）があると、次からその学習者は交流しようとしなくなる」というのが協同学習の配慮事項の一つである。そこで、本校では1学年でまずSELとPBISで基礎固めとして自己成長をはかり、2学年から相互成長としてピア・サポート、そして3学年から積極的に協同学習という順序性を持った取り組みの試行を開始した。どれも手探りで初めての枠組みで行うものなので、やり方を研究しながら取り組んでいる。

◆MLAプログラムの4つの柱

①SEL ②PBIS ③ピア・サポート ④協同学習

◆MLAを導く4つの理論

①ソーシャルボンド理論 ②欲求理論 ③行動理論 ④愛着理論

◆実施（または参加）した主なMLAに関わる教員研修

4/8 「PBIS研修」（1学年）

5/22 「SEL研修会」（1学年・有志）

5/31 「アセス研修会」

7/18 「MLA研修会①」

8/1 「いじめや不登校を未然に防ぐピア・サポートについて」

（ちえりあ 講師：栗原慎二先生 受講対象者：希望当選者参加）

8/2～7 教員一般研修・免許更新講習（かでの2・7 受講対象者：希望者参加）

「教育の最新事情」（講師：金山健一先生）

「子どもや保護者との信頼関係の築き方」（講師：栗原慎二先生）

「ネットいじめ・SNS問題の現状と対応策」（講師：金山健一先生）

「集団づくりと学級経営」（講師：金山健一先生）



「子どもの豊かな感情と社会性を育む」(講師：金山健一先生)

- 8/5 令和元年度 豊明・みなみの杜夏季合同研修会(講師：栗原慎二先生)
「社会性を育む包括的生徒指導 ～MLAの概要と明日の教育を考える～」
- 8/6・7 総社市視察研修(2名) <12/2・25の2日間、伝達研修>
- 8/9 「いじめ問題や生徒の不応行動の未然防止に向けて
～今日から生かせる生徒指導のコツ～」
(雨竜町公民館 講師：金山健一先生 4名参加)
- 11/2 「ピア・サポートを学ぼう！」
<日本ピア・サポート学会オホーツク支部主催>(3名参加)
- 12/3 「MLA研修会②」
- 1/6・7 「ピア・サポートトレーナー養成ワークショップ」
<日本ピア・サポート学会北海道支部主催>(5名派遣、2名個人参加)

◆MLAプログラムの試行導入計画

2019年度 全学年 アセス(学校適応感尺度)実施(年3回)
教育相談週間(年2回)
1学年 SEL実施(年間10時間)…3年間実施
PBIS実施 …3年間実施
(2・3年生は可能な範囲で実施)

※ピア・サポートについては生活委員会などで試行を図る

※協同学習については各教科で実施



<試行予定計画>	2019年度	2020年度	2021年度
1学年	アセス SEL PBIS	アセス SEL PBIS	アセス SEL PBIS
2学年	アセス	アセス SEL PBIS ピア・サポート	アセス SEL PBIS ピアサポート
3学年	アセス	アセス	アセス SEL PBIS ピア・サポート 協同学習

【実践①】SEL(Social and Emotional Learning 社会性と情動の学習)について

○ ねらい

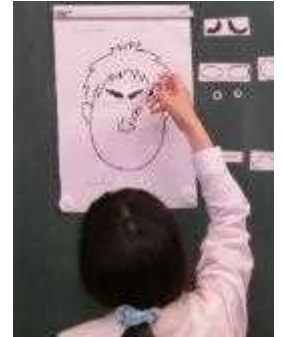
自己の捉え方と他者との関わり方を基礎とした、社会性(対人関係)に関するスキル、態度、価値観を身につけさせる。

○ 学習内容

- ・自己への気づき：自分の気持ちや価値（長所や短所）に気づく
- ・他者への気づき：他者の理解や共感を示す
- ・自己のコントロール：目標達成のために感情や行動をコントロールする
- ・責任ある意思決定：個人や社会的な行動に関して道徳的で建設的な選択をする
- ・対人関係：ポジティブな人間関係の形成、チームワーク、葛藤の効果的な対処。

○年間計画（2019年度 1学年 年10回）

- ① オリエンテーション 「SELについて」 （体育館 学年合同）
- ② 規範遵守「私たちの校則」 （各クラス）
- ③ 自己・他者の感情理解「おこっているわたし」 （各クラス）
- ④ 自己・他者の感情理解「いろんな気持ち・相手はどんな気持ち」
（体育館 学年合同）



- ⑤ 伝達・協力・問題解決

「グループワークをしよう①～動物園の案内マップをつくろう～」(体育館 学年合同)

- ⑥ 伝達・協力・問題解決

「グループワークをしよう②～お祭りの夜店マップをつくろう～」(体育館 学年合同)



- ⑦ 携帯電話「顔の見えないコミュニケーション」

(体育館 学年合同)

- ⑧ 自己の感情理解「自分はどんな気持ち」 (各クラス)

- ⑨ 自己制御「こころの信号機」

(体育館 学年合同)

- ⑩ 自己制御「ちょっと落ち着いて」

(各クラス)

【実践②】PBI S(Positive Behavioral Interventions and Supports ポジティブな行動介入と支援)について

○ ねらい

価値を具体的な行動レベルで示し、価値的行動を身につけさせ、望ましい行動を増やし、望ましくない行動を減らす。

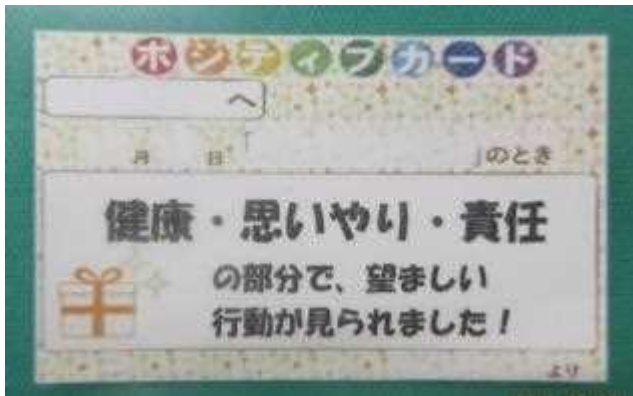
○ 学習内容

学校目標「豊かな心 強い体」から、思いやり・責任・健康の3つの価値を提示し、それらに基づいた具体的な行動を、生徒が主体となって決め(場所や場面ごとに、望ましい行動を生徒の意見で決める)、掲示し、のぞましい行動について、ポジティブカードグッドビハイパーカードやシールなどで即時に賞賛し強化する。

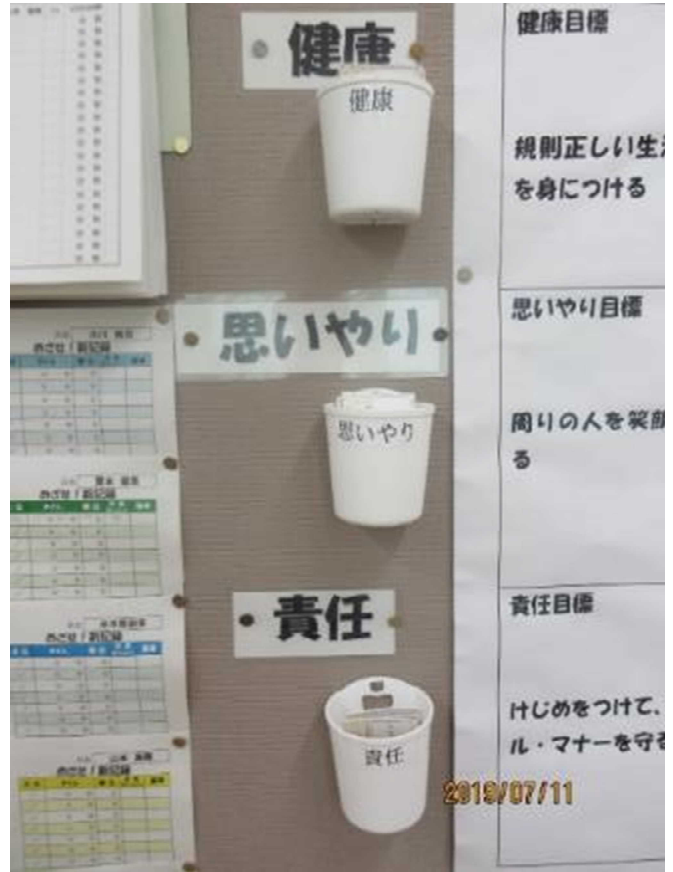


付箋に記入した生徒の意見

「ポジティブカード」



望ましい行動がみられた場合、生徒の名前、月日、場面を記入し、価値別に下の紙コップに入れていく。入れるのは、生徒や教師。帰りの会などで発表。一定枚数がたまると、お楽しみ会などのご褒美企画がある。



「good シール」



良い行動ごとに「good シール」を貼る



望ましい行動チャート

学級目標	場所・場面					
	教室で	廊下で	更衣室で	体育館で	トイレで	バス・地下鉄内で
健康目標	きちんと座る 体をこわさないようにする	歩くようにする 歩く あいさつする	素早く着替える 汗をかいたら着替える 素早く着替える	体操をしっかり行う 適切に体を動かす あいさつをする	ゆづりあう 手を洗う ゆづりあう	時間通りに乗る 使いやすくする マナーを守る
規則正しい生活習慣を身につける	あいさつする 静かに座る 歯をしっかりと磨く 常に正しい行動を意識する 姿勢を正す	歩く 水をたくさん飲む 歩くことを意識する 歩く	入退室に失礼しませ 静かに素早く着替える 汗をきちんとふく しゃべらず急いで着替える 素早く着替える	安全に気をつける 真面目に走る 今よりも強い体を作るケ ガをしなないさせないようにする	あいさつをする 手を洗う 手を洗う しっかりと手を洗う 手を洗いハンカチで拭く	静かにする 静かにする 行きたい時にトイレに行く リュックは下ろす 静かにする
思いやり目標	自分から話しかける みんなと仲良くする あいさつと会話をする やさしくする 会話をする 酷い言葉をセーブする クラスを支える 自分から声をかける	あいさつをする 歩くようにする あいさつをする やさしく話す 明るくあいさつする 目上の人に自分からあい さつをする 丁寧に歩く 自分からあいさつする	スペースをとりすぎない みんなが使いやすいように 静にする 自分のロッカーを開める 踊りつつ着替える 静かにする 一瞬で着替える 素早く着替える	スペースをとりすぎない みんなが使いやすいように 周りに気を配る ケンカを売らないように する しっかり遊ぶ あいさつ返事をしっかり する カゴぶを熱くさせる 色々なクラスの人と一緒に 遊ぶようにする	ゆづりあう 汚さないようにきれいに 使う ゆづりあう トイレトペーパーを正 しく使う 踊る ドアをきちんとしめる 余計な話をしない あいさつする	かばんを足元に置く みんなが使いやすいように マナーを守る 静かにする つめるか踊る マナーを守り静かにする しっかりと座る 小さい声で会話する 運転手にあいさつする
責任目標	休憩と授業の区別をつける みんなと仲良くする 区別をつける あいさつをする 時間が来たらず静かにする 授業では真面目モードに 切り替える みんなをひっぱる 授業では気持ち切り替 える	しっかりと歩く あいさつをする 明るくあいさつする あいさつをする 大直で話さない ゆっくりに歩き右側通行 しっかりと歩き挨拶する 走らずゆっくりに歩く	人のロッカーをのぞかない ようにする みんなが使いやすいよう に片付ける 着替えに集中する あいさつをする 静かに踊りつつ素早く着 替える ドアを開める 洋服をしっかりとたたむ 着替えを早くきれいに使う	ボールのルールを守る みんなが使いやすいように あいさつをする 安全に遊ぶ 真面目に取り組み 全力で進む 時間とボールのルールを 守る	ゆづりあう キレイに使う 用を済ませたらすぐに出 てくる あいさつをする 静かにする ドアをきちんと閉める ドアで遊ばないようにする キレイに使う トイレトペーパーを適 切に使う	しずかにする しずかにする マナーを守る 静かにする リュックやかばんを下す 寄り道しない スマホはOFFする 立っている時は手すりにつか まる 騒ぎ過ぎないように声のホ リュームに気をつける 運転手の指示を聞く

【実践③】ピア・サポートについて

○ ねらい

友達同士で支え合う力を育てる。

○ 学習内容

- ・「友達のいいところ見つけよう」…各クラスで実施
- ・「朝—あいさつスタート月間」

＜あいさつのチェックポイント＞

- | | |
|-------------|----------|
| ① 自分から先に伝える | ② 明るく笑顔で |
| ③ 相手の顔を見る | ④ 場に応じた |

帰りの会で振り返り、達成度に応じて廊下のカレンダーにシールを貼る。

2学年の活動から生活委員会の活動へ拡大。

- ・「オープンスクール」…体験入学の中学生に仕事を教えるサポーター（2年生）
- ・朝の会、帰りの会、授業などで「アイスブレイク」を部分的・実験的に実施。



【実践④】協同学習について

○ ねらい

対人関係と真の学力を身につける。

○ 学習内容

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研究授業を各教科で取り組み、日々の授業で実践する。

(3) 研究のまとめ

① 成果

- SELやピア・サポート、PBISなど、あえて教師側から生徒に仕掛けることで、新たな活動やコミュニケーションの機会が増え、明らかに生徒の変容を感じる事が出来、MLAの効果を実感できた。

(例)

SEL：感情理解の学習では、表情と感情を結びつけるのが苦手な自閉症スペクトラムの生徒が、朝の会や帰りの会で繰り返したレーニングを続けたところ「先生、今日は機嫌が悪いですね」と顔の表情だけをみて発言した。また、「グループワークをしよう」では、授業中にミッションを達成できなかったグループの生徒が悔しがり、担任の先生に「悔しい、もう一回やりたい」と申し出をし、クラス担任が対話型のグループワークをいくつか独自開発して再挑戦した。

ピア・サポート：2学年でスタートしたあいさつ運動で、「今まであいさつしてくれなかった〇〇くんがあいさつしてくれました」と報告してくれたり、「僕らもあいさつ運動やらせてください」と他学年性とかが参加したり、あいさつに反応することが苦手な生徒が友達からの明るく熱心な関わりに対しニッコリ微笑んだり、など生徒の変容が多く見られた。あるクラスで、アイスブレイクの「あいこジャンケン」をやったところ、普段はネガティブ思考が強くて、人と関わることが苦手で暗い表情がほとんどの生徒が、ジャンケンの輪に加わり、あいこになるための方策に誰よりも早く気づき、それを皆に伝えて賞賛を浴び、表情豊かに活動する姿が見られた。

PBIS：友達の良い行動について発表することで、望ましい行動をすると発表されて良い気持ちになり、さらに望ましい行動をしようという好循環が見られた。「〇〇しない」や「〇〇はダメ」と行った言葉ではなく「〇〇をする」や「〇〇をしよう」という言葉で考えようと伝えて取り組んだところ、望ましい行動が、行動レベルで具体的にわかるようになった。等々)

- アセスによる生徒の学校適応感尺度の結果を踏まえたアセスメントと教育相談週間を実施した。アセスメントツールの一つとしてアセスを導入したことは、的確な支援のために大いに役立った。
- 独自の校内研修の実施と、効果を実感した先生方の積極的な研修参加。
(MLAの校内研修を受けて興味を持ち、独自に外部の研修会に参加した先生等が、研修内容をクラスでどのように生かすか等教材研究を進め、他の先生と情報交流するなど、職員室でMLAに関わる先生方の会話や交流が増えた。また、ピア・サポートの研修会で学んだ対立解消メディエーションのやり方<アルスの法則>を実際の生徒の対立の解消に教師が使用し、普段は自分の非をなかなか素直に認めることが出来ない生徒が、自ら謝罪しお互い仲直りするなど対立を解消することが出来た。)
- 生徒の変容はもちろんであるが、MLAを担当した教員の変化(成果)を実感した。教員の長時間労働は、社会問題のひとつであり本校も例外ではない。本来は長時間働くこ

とにより、仕事が片付き達成感や充実感につながって欲しいところであるが、教育現場では、長時間働きながらも、解決しない生徒指導上の問題が多く、先生方の疲労感・徒労感が多いのではと感じる。しかし、MLAの試行導入をめざし教員研修を受けた結果、特に、徒労感や疲労感が少しずつではあるが、達成感・充実感に変わった実感がある。

② 課題

- 教材研究時間の確保。
- 効果的な、教員研修の継続的な実施。講師の確保。
- MLAを行うための、校内組織作り。
- クラスや先生による取り組みの偏り。
- 学習した内容を、どのように日常の活動に結びつけるか。
- PBI Sなど、チケットやシールを配布することが目的化したり、マンネリ化しないか。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- MLAの導入は、プログラムを教育課程に位置づけ、計画的・意図的に生徒に良質のコミュニケーションの機会を提供することで、すべての生徒の対人関係力の改善・ともに支え合う集団づくり、により「いじめ」や「不登校」を未然に防ぎ、性別や個人の特性の違いによる差別のない学校づくりを生徒と教師が一体となって推進する、まさに「人権教育」である。
- 『マルチレベルアプローチMLAだれもが行きたくなる学校づくり』（栗原慎二 編著 ほんの杜出版）や岡山県総社市の教員研修（悉皆）では、効果が表れる研修時間の閾値を、概ね一般教員で年間30時間、担当者・ミドルリーダー・管理職で年間60時間と設定している。しかし、日々の多忙な業務や「働き方改革」など研修時間の確保は、至難の業であると言わざるを得ない。本校ではMLAの導入は無理であるとは考えずに、どう工夫すればMLAを導入できるかを以下のように考えた。

◇特別支援校である本校は、MLA関連研修の特別支援に関わる研修については、悉皆としない。また、現在、すべての授業でTT、クラスも常に担任・副担任の複数で指導しているので、チーム支援の形が整っている。以上のことから、本校のMLAに関する一般教員研修は、年間約20時間と設定。校内研修しか受講できなくても、2年でMLA全体の内容を網羅できるようにした。さらに、MLA担当者や学年主任などのミドルリーダーは任意研修（受講料自己負担のものが多く）で、出来るだけ多くの研修を受けられるようにすることで、MLAの導入が可能と判断した。

<校内研修>

- SEL研修…0.75h
- PBI S研修…0.75h
- アセス研修…0.75h
- MLA研修①…1.5h



●MLA研修②…0.75h

●夏休みの研修…3h

●冬休みの研修…3h

計10.5時間

<任意研修(各自申し込み参加)>

●教育センター「ちえりあ」での1日研修(ピア・サポート)…6h

●アイセス提供の免許更新講習

(会場:かでの2・7 一般研修でも受講可能)…6h×5日間=30h

●「ピア・サポートを学ぼう!」(オホーツク支部)…5,6h

●ピア・サポートトレーナー養成ワークショップ(北海道支部)…13.5h

計55.1時間

必修研修と任意研修を合わせた総合計 65.6時間



- 自治体や教育委員会が主導でMLAに関する研修会を提供してくれるのが理想かもしれないが、上記のように学校努力でも導入は図れるはずである。今年度、本校では学年主任3名を含む7名がピア・サポートトレーナー養成講座の13.5時間研修に参加し、免許更新講習対象者にアイセス提供のMLAに関するものを受講してもらうなど、任意研修の積極的受講をうながした。
- MLAはある意味大掛かりで、教員研修時間の確保など大変に感じるかもしれないが、中身自体は今まで教育現場でやっていたことがほとんどで、新しい体系的な枠組みの中で包括的に行うことを教員みなが共通理解のもと行うことで効果がある。

MLAは1つのパッケージになっているので、理解さえすれば導入可能である。現に総社市では小学校・中学校の先生全員が出来るのである。高等支援学校の本校からよりも、出来れば小学校、中学校が連携して実施し可能であれば幼稚園・保育園・こども園から取り組むことが出来ることを望みたい。特別支援校である本校では、2年間でMLAの全体が網羅できるような研修を考えているが、通常の小学校や中学校であれば、3年間でMLAの全体を網羅する研修を組めば、少しの工夫で十分導入が可能ではないかと考える。そのために、総社市への視察研修はお勧めである。そして、札幌の多くの学校でMLAの研究・実践を行うことを期待したい。

《公益社団法人 学校教育開発研究所(AISES アイセス)の資料・総社市教育委員会「だれもが行きたくなる学校づくり入門」・「マルチレベルアプローチMLAだれもが行きたくなる学校づくり 日本版包括的生徒指導の理論と実践」 栗原慎二 編著 ほんの森出版 より転載または参照》